

令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

調査対象：5年生

調査事項

ア 実技に関する調査

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問紙調査（運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査）

1 結果と分析

- 男女とも、ほとんどの種目で全国平均を上回っており、特に、握力や長座体前屈の結果がよかった。
- 男女とも、実技の総合評価が全国平均よりよかった。
- 男女とも、立ち幅とび（すばやく動き出す能力）に課題がある。
- 女子は、週の運動時間が0分の割合が全国平均に比べて多い。

2 取組についての評価

(1) 体育科の学習指導

①効果があった取組

- ・ 友だちとの交流を通して、動きのポイントや技のコツ等を教え合うことができる活動の設定
- ・ できるようになったことを自覚させる自己評価や振り返り活動の設定
- ・ ICT機器（タブレット端末）を活用することで、自己の動きを振り返る活動の設定

②改善を図る点

- ・ 体育の運動の時間を十分に確保できるように、短時間の帯活動として全身持久力を高める運動を持続する活動を継続的に行うこと
- ・ 瞬発力を高める準備運動を設定し、継続して取り組むこと

(2) 今後の体力向上に対する取組

- ・ 計画的な練習の期間の設定、及びスポコンフェスタ（または長縄記録会）の実施
- ・ 日常の体育科の学習において、課題になっている項目を意識した指導の推進
- ・ 朝食摂取率を高めたり、睡眠時間を長く確保したりするための家庭への啓発と、子どもへの指導の充実
- ・ 日常的に休み時間において子どもとともに体を動かすことの推進